第 6 回　中標津町都市計画マスタープラン　策定委員会　議事録

◇開催日時：令和 2 年 6 月 22 日（月）19 時 00 分～21 時 15 分

◇開催場所：中標津町総合文化会館（しるべっと）コミュニティホール（WEB 会議形式）

◇参 集 者：委員 22 名中　15 名出席

（欠席者：上原委員、加藤勝二委員、加藤昌之委員、長渕委員、村元委員、遠藤委員、高松委員、）

１．開会　中標津町建設水道部都市住宅課長　天野英典

皆様お疲れ様です。それでは、定刻を過ぎましたので、まだお見えになっていない方もいますが、只今より第 6 回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会を開催いたします。

本日はお忙しい中、会場にお越しの皆様、リモートでご参加の皆様、ご出席いただきましてありがとうございます。第 5 回策定委員会の後、全世界におよぶ新型コロナウィルス感染拡大の影響から、不要不急の外出やイベントなどの自粛要請、そして全都道府県を対象に発声された緊急事態宣言を受けまして、感染拡大防止、事態収束の観点から、各種会議が延期や書面会議に移行されてきまして、当委員会についても開催できず、委員の皆様と議論を重ねることができませんでした。

今後 with コロナという新たな時代となり、環境、社会、経済における変化とともに、私たち自らが変化することが求められています。

会議の開催方法も試行錯誤しながら、前向きな変化を起こすべく、ソーシャルディスタンスを保ちながら、本日の委員会開催を決断させていただいた次第です。

２．出欠の確認

（天野課長）

本日の委員会については、委員の半数以上の出席がありますので、会議が開催できますことを報告させていただき、会議のほうを進めて参りたいと思います。

それでは、議事に入る前に、4 月 1 日で役場の人事異動に伴いまして委員の異動がありましたので、ご紹介をさせていただきます。経済部長の板橋でございます。

（板橋部長）

板橋です。よろしくお願い致します。

（天野課長）

本日は都合により欠席となりますが、町民生活部長の高松も新しく委員会に参画していくこととなります。

３．小林委員長からの挨拶

（天野課長）

それでは、早速議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、小林委員長に進めていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

（小林委員長）

お久しぶりです。今課長からありましたが、4 月の頭に宣言があって、もうそろそろ 3 か月ですね。その間家庭だとか地域の方たちとか仕事場での付き合いとかを通して、色々なことを感じられたと思います。そういうことを生の言葉で、普通の言葉で共有しながら思い描いていくことが大事だと思います。

世界中すべての人がこのパンデミックを体験しているんですね。生きる難しさとか、危機感とか。一方では、イタリアでは観光客が来なくなって、ベニスの運河はすごくきれいになっているんです。いかに我々の日常生活や経済活動が地球環境に与えている影響が大きいかを実感していると思います。

中標津は緑の豊かさとか、安心する場所であるという意味でも、そういう壮大な世界中の経済状況を体験しながらも、中標津ではどうするかということ、これからの子どもたちへプレゼントするまちのことについて、皆さんでもう一度話していただきたいと思います。

これまでのことをすべて忘れてほしいわけではなくて、どうだったのかなということも含めながら改めて考えていく、そんな 2020 年度にしていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

４．話題提供

（小林委員長）

出席の皆様には資料がお手元にいっていると思うのですが、リモートの方は佐瀬さんが共有してくれると思いますので、そちらを見ながら僕が今考えていることを説明したいと思います。

これは国交省の若手と Zoom で議論していた時のたたき台です。4 ページありますけれども、前半 2 ページは国交省の時のもの、後半はそれをもう少しわかりやすく皆さんに考えてもらうためのヒントとなっています。

今世界中がほぼ同時に体験している社会実験が進行しています。もう 1 か月くらい経つと、ブラジルの死亡者がアメリカを抜くと思われます。もう 1 回それが北半球に戻ってくるということもあり得るし、落ち着くまで数年かかるんじゃないかと言われています。

１つ目が地球規模の環境問題で、いろんな意味でプラスもマイナスもあるし、マネーゲーム資本主義というので我々の住んでいるところに投資が行われて、そのシステムに問題があるのではないかということです。

２つ目が、環境と人間社会が共生するということがどんな風に難しいか、どういう風に共生するかということを考えなくてはいけない。

３つ目は、２～３日前に、質疑応答で話をしていましたが、国土計画をもう一度見直そうということ。東京一極集中が問題で、地方でも大きな都市に全部集めて、というのが問題で、もう一度日本全国分散型の国土計画にしようという話をしていましたけれども。１カ所にす

ることで効率化といういい局面もあるんですけれども、一方で３密という問題が出てきているのをどうするか。

４つ目は、市街地というのは何ヘクタールが理想、というのをやってきたけれども本当にそうだろうかと。社会の格差、お金を持っている、持っていないだけではなくて、立場も含めて、格差が歴然としてきた。そういう弱者というか高齢者的な意味もあるんですけれども。それと、外出しなければいけないという組み立てになっているけれどもそれはどうなのかを考えなくてはいけないと。

それと、自分たちは新しい生活様式と言っていますけれども、そういうのを前提とした時に、まちをどういう風にしていけばいいのかと。大きい都市、中ぐらいの都市、あるいは小規模な都市、それぞれ違うんだと。中標津のような都市。皆さんが知っている松前だとかとは違うわけで、中標津らしい姿は何かを考えることが必要です。それが視点の５です。

次のページに行きますけれども、これからの子どもたちが安心して with コロナと言って、今の中学生、高校生が大人になる、社会人になるころにどんな街になっていたらいいのかを考えること、まちを回復していくときに、今までと同じやり方でいいのかということを前提にしながら、もう一回リセットじゃないですが、再計画をすることが大事なのではないかなと。

そのためにはどのような視点でやっていけばいいのかというのが、１番目ですけれども、SDGｓとレジリエンシー、共生と訳されますけれども、それをどう考えていくか。都市は色々なストレスの塊なんです。東北の震災がありましたけれども、そういうような突発的にくるショック的なもの、地震だとか、水害だとか、病気発生とか、そういうものにどう対応するのかという都市の持続性とか、日々起きていくストレス、これは人口減少とか、高齢化が進行していくとか、コミュニティや町内会がだんだん元気がなくなっていくだとか、失業者が増えていくとか、インフラが古くなっていくだとか。そういうときに、この２つのことを考えていかないといけない、ということが改めて分かったんではないかと思うんですね。

それで、個人の問題、家族の問題、地域社会の問題、事業者の問題とか、これまでのシステムの在り方がこのままでいいのかということを考えなくてはいけないので、まちのあり方も当然考えられるだろうという風に思います。

中標津のこれまでのまちづくりのプロである行政やコンサルタントが考えてきた計画というのがあって、それになんとなく意見を言うのではなくて、自分たちでもう一回再整理をする姿勢があってもいいのではないかと思います。

視点２番目に行きます。パンデミックと都市の強靭さ、これを自分たちの生活に即して考えてみることが本当は大事なんだということです。

視点３番目ですが、都市計画マスタープランというのを図面の上に書かれて、皆さんこれが都市計画マスタープランなんだと思っていると思うんですけれども、行政の他の部門でも、都市計画でない人も、まちをこういう風にしようとか、人材配置しようとか思っているわけですけれども、そういうのを全部束ねて共有化するというのが大事なんではないかと。そういう大事なところがツボだと考えてよいのではないかと思います。

視点４番目。増田レポートといってこのまま黙っていると街が消滅するというショックな報告書がありました。だけれども、人口予測だけで町がなくなることはないわけです。増田

レポートに引きずられないで、自分たちらしいあり方を伝えていくことが大事です。街の姿って何だろうと、もう一度考えることが必要です。

５番目。町の中心には立派な建物と大きな施設があり、周辺には住宅地がある、という風につい考えがちですが、果たしてそうかと。今若い人たちにアンケートをとると、３人に１人、2.5 人に１人は地方都市に行きたいと考えているんですね。東京都の不動産の価格が今大きく下がっていて、周辺の土地価格が上がりつつある。そういうふうに、１点集中とはちょっと違うなと。

それから６番目。持続していくことができるかということを、客観的に数字を見て考えていくことが必要だという、これは大雑把な話です。

次、３ページ目に移ります。

皆さんにお尋ねしたいんですけれども、きょう頭に入れて時間を有効に使ってほしいのですが、幸せってなんだっけ、ということです。

地元の良さを見つめる非常にいい機会がこの数か月だったと思うんです。街の新たな姿を考えるときに、新しい生活様式を前提にしながら、中期的にどうしたらいいのか、そのために必要な、存在している社会的な手法はなんだろう。人生１００年を支えるために、必要な食料や水だとか、医療や健康や教育だとか、そういうことをもう一度考えてもいいのではないだろうかと思います。

With コロナ、短中期的に何を考えないといけないかというと、行政のつくってきた公共的な空間を、もっと活用していこうと。例えばここは、駐車場にフェンスが張ってあって入れないですよね。管理するうえではそうなんだけれども、本当にそれでいいのかということが考えられ始めました。

今朝も国の連中と話をしたんですけれども、道路を管理している国交省の道路局が、特に飲食の人を念頭において、そういうのを救うという口実にして、道路に椅子を置いて飯を食えるようにしていいよ、と言っている。道路は車が走る場所と決めてきた、監理してきた側、警察の考え方を変えようというのを、表に強烈に出し始めたんです。ですから、道路で飯を食う風景というのが、１１月３０日までなんですけれども、首都圏や大きな都市で増えているんです。公共空間は皆のものだと考えることが必要だと思います。

それから公共的な場所を動くための移動の手段というのを、これから考えなくてはいけない。公共的なバスとか鉄道とか以外のものを考えていかなくてはならない。

もう一つ、身近な生活圏、自分たちの隣近所、そういう中でのビジネスを考えることが必要ではないかと。中標津町に住んでいて幸せとは何だっけ、というのを考えていきたい。地元の良さ、特徴は何かというのを考えて行ければと思います。

そんなことを、黙って誰かが言うのを聞いているのではなくて、コロナの先の世界というのをいろんな人が、家族で、隣近所で、こんなことをやろうと考え始めています。そうすると今までとは違う世界がくると皆さん共通に思い始めている。中標津らしい「違う世界」とは何だろうか。感染リスクが少ないということは地元の良さでもあるわけです。地元の良さというのは何だろうかと、ぜひ自信をもって考えていただきたいなと。それが中標津の動きで、世界が共鳴してくれるようなものだと思います。

これから子ども達のこと、自分たちのことを考えていくのは、この２～３か月の中で、ど

んなことを考えてきて試したりしたのか、発見してきたのか、それを普通の生活感覚で思い出していただければなと思います。

これから中標津の皆さん、子どもたちにとって、本当に必要な場は何なのか。皆さんも実感していると思いますが、４月から中学生、高校生は何をやっていたか。小学生はお父さんお母さんと時間をつぶせるが、中学生や高校生は行き場がないんです。それは本当にそれでいいのか。子どもたちもそう思っていると思います。

今日の委員会は、自分たちの生活の中で発見したこと、チャレンジしてきたことを皆で普通の言葉で共有していくことが重要なんではないかなと思います。普通の言葉で、普通の感覚でお話しいただければと思います。

５．進め方について

（小林委員長）

次に、これからどうやって進めていくのかについてご説明ください。

＜㈱ドーコンより資料に基づいて説明＞

６．議事

（１）現在の対応状況・今後の見通しについて

＜中標津町より資料に基づいて説明＞

①フォーラム振り返り　②WEB アンケート結果　③空家実態調査　④都市マス策定スケジュール

（２）グループディスカッション

（ドーコン生沼）

次に、グループディスカッションに移っていきたいと思います。時間として５０分ほどとっておりますが、現在７時５０分ですので、８時４０分まで意見交換できればと思います。

皆さんのお手元に、ツボ活性化プロジェクトのイメージというのと、希望選択シートというのがありますが、これについては、各グループの中で、ドーコンから説明させていただきます。具体的には、グループディスカッションの３つ目のテーマで資料をご覧いただければと思います。

それでは、早速グループディスカッションに移っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

＜テーマ１：今年度の都市マスの検討方法＞

表　委員からの意見（テーマ１）

分類	グループ	意見
会場の課題	会場１	● 今回の**配置は遠く**て、顔が見えない。もう少し近くしても同じだと思う。 ● 今回の配置は、**遠くて**グループディスカッションはできない。 ● ファシリテーターの話すらよく聞こえない。 ● **会場が広く**声が大きいため、隣の声も聞こえてしまう。
	会場２	● 基本的にはいいと思うが、**音響が良くない**。聞き取ることができない。小林先生の声も聞こえなかった。こういう広い会場でやると音響の課題があり、耳が悪い人に対して配慮が欲しい。 ● **距離がありすぎる**。 ● 役場の会議室だと狭いからしるべっとにしたと思うが、天井が高くて声が響いてしまい、**聞こえにくい**。
会場の改善方法	会場１	● 飛沫を防ぐには**マスク**と**仕切るパネル**があるといい。 ● インカムがあるが、売り切れていて入手できない。 ● **スピーカー**などの機材の使い方についても考えていきたい。 ● ３密を避けるため、**イヤホン**と**マイク**で聞こえるようにしてほしい。
	会場２	● **イヤホン**で聞けるようにしてほしい。
WEBの併用	会場２	● WEB参加は仕方がないが、本当は皆で話したい。 ● 都市マスに限らず、今後は **WEB を用いて進めていく**ことになると思うが、議事の進行に影響がないように環境を整えなくてはならない。議事の内容によっては集まらざるを得ない場合もある。 ● 会場でやるのと WEB でやるのとで分かれると、**この場にいないので顔が見えない**という点にやりづらさを感じる。 ● **WEB の方々にも資料を事前に配布**しているのであれば問題ないと思う。当日配布ではなく、そういった準備も必要になると思う。
	WEB参加	● 今日のように WEB 併用をお願いしたい、**札幌から行く人に対してリスクを感じる**人がいる。新北海道スタイルだけで進めるのはまずい気がする。 ● 今年度はwithコロナで進んでいく。WEBを活用して、タブレットやノートパソコンを持って **WEB 会議を進めていく体制を整えるべき**。（**この後の再流行に備えて**） ● 中標津町の**ネット環境が良くない**ため、WEB参加だけにはできないが、この後のコロナのことを考えると **WEB 参加の方法を確立**した方が良いのではないか。 ● WEB人口を増やすことはこれから取り組むべきこと。ここにいる皆さんは普通に使っているが、まだ使ったことがない方々も多い。**教えあったりすると世代間の交流にもなる**。実際に、学校でもあまり進んでいないのが現状である。 ● 会議の進め方は**WEBを選択肢の一つとして確立**していくべき。 ● まちづくり町民会議でもこのような方法を取れないか。**町としてもやり方の一つとして整備**していくか検討しては。 ● WEBを進めていくことは良いことだが、会場にいらっしゃる方はWEBに対するハードルが高かったりする。WEBでないとだめだとなると、その方々が疎外感を感じてしまう。 ● インターネット環境的な問題は整備できるものなのか。

＜テーマ２：アフターコロナを踏まえたまちづくり＞

表　委員からの意見（テーマ２）

分類	グループ	意見
現在の状況（産業）	会場１	● 酪農が基幹産業で、コロナに関しては影響が少なかった。街の経済が支えられている大きな要因である。**基幹産業がいかに大事**かということが分かった。 ● スポーツをやっている人の商品を扱っているので、運動会などのイベントも中止になり影響を受けた。ネット販売も以前からやっていたが、売れなくなった。一方でバスケットボール、縄跳び、鉄アレイなど自宅でできるようなスポーツ用品は売れていた。 ● **今の影響は５～６年というスパンで出てくる**もの。 ● **お金が町内で落ちなくなっている**。 ● 建設業は、３～５月は閑散期なので、特別影響はなかった。建設業が影響を受けるのはこれからである。 ● 学校給食の中止の影響は農協も大きく受けている。 ● 印刷業をしているが、４月は行政が動いていたからよかったが、５月以降はイベントが中止になってしまって打撃を受けている。 ● 中標津町は**集客力が集中しているので、飲食や旅館業も打撃が大きい**。中標津としてこれまでよかった分、現在集客ができなくなった影響が大きい。ビジネスで中標津に入ってくる人は以前はホテルが取れないくらいだったが、それがなくなってしまった。
	会場２	● すべてが止まったような感じになって、どうしたら事業を継続できるかという**BCP 計画が重要**だと感じた。
現在の状況（生活）	会場１	● この２～３か月でコロナの生活に順応してきている。 ● 犬の散歩などでストレスは感じなかったが、外出が減ってさみしいくらいだった。 ● 昔に戻ったというか、川釣りをやめていたが、一番影響がないので新たに始めたり、料理をしたり、**今まで気づかなかった楽しみをやるようになった。** ● **ネット通販の機会は増えた。買い物は困らない**というのが分かった。食材は別にして、ものが大体それでそろってしまう。 ● 緊急事態宣言が解除されて以降、若い人が出てきているが、**高齢者はリスクを感じているので外出していない**。
感染防止の取組状況	会場１	● 町民も３密を避ける行動をしてくれたおかげで感染者が出ていない。飛行機は飛んでるなかで、中標津町内に持ち込まなかったのは優秀である。 ● 都道府県単位で指示が出ているが、経済面からみるともう少し細分化して柔軟な対応ができるようにしたほうがいい。 ● 国の指示の下で学校関係も休みになり、子どもの安全を守るために動いているが、コロナの実態が分からないので、危険と思う感覚も人によって違う。 ● 見えないものとの闘い。マスクを外して今まで通りになるためには、薬ができないといけない。それまでどのように対応していくかが課題である。 ● 経済が絶対なのでどこまで対応していくかが課題である。 ● **酪農を守る**ためには、危険を冒すわけにはいかない。

分類	グループ	意見
移住促進・まちの良さのPR	会場１	● 都市の集中から分散という話があったが、**東京の分散を受ける側**になる。 ● もともと一極集中は経済的にも良くないので移住促進を進めているが、結局まちのいいところをPRして分かってもらわないと住んではもらえない。 ● **外から来た人にまちのいいところを気付かせてもらえる機会**を設けたほうがいいと町長とも話している。**住んでいる私たちがこのまちの良さを見出していかないといけない**。行政マンだけではできていないのが現在である。 ● 教育委員会では、伝成館の近辺のルーツを知ってもらうことが重要ということで計画を作り上げようとしている。**今住んでいる町民に理解してもらう**という活動を大事にしている。 ● コロナというのをきっかけに分散を進めていったときに、**ウェルカムアピール**していったところがチャンスをつかめる。うちのまちも空気はきれいで、野菜もおいしい。それに外から人が移住しやすい条件を付けて、**発信をしていくことが重要**である。 ● 中標津など地方に住んでいる人は、地方が良くて住んでいる人が多い。**田舎な割に病院もあって交通の便もいい**という理由で住んでいる人は多いのではないか。移住で人がどんどん来すぎたら、それはそれでどうだろうという不安はある。 ● 中標津の良さとしてはバランスの良さがある。**田舎の良さを残しつつ、都会的なにおい**もないと若者は住まない。都会に行かなくてもイタリアンやフレンチが食べられるところはなかなかない。素材がいいだけではないのが中標津の魅力。若い人が帰ってきて商売をやっているというところもいい。
	会場２	● ここ何年かで地方創生で東京一極集中を改めようとしていたが進まなかったのが、今回のコロナの影響で少しずつ緩和されていくのかと思う。**移住希望の動きをとらえて、地方移住できるようなインフラを整えて、準備しないといけない**。そういうことも盛り込まないといけないと感じる。 ● 街が移住用の住宅を一定期間貸すなど、中標津町もサテライトオフィス的な動きがあるので、その動きが加速すると思う。
	WEB参加	● 田舎に住んでいてよかったと感じた。人があまり住んでいない、交通の便がいい**中標津は住みやすい**のではないか。
インターネット環境の整備	会場２	● 都市の分散ということがあるが、**中標津もインターネット環境は整っていない**ので、ぜひインフラ整備の視点として入れてほしい。計根別地域は光回線が来ていない。 ● 国の事業で子どものオンライン授業や、インターネットの速度を早くするための予算をつけていて、**来年には全世帯を光回線でカバーできるようになる予定**である。 ● 全世帯で光インターネットがつながれば、パソコンなどの整備も必要になる。 ● **お年寄りの情報格差**を何とかしなければならない。この何か月かで人とのコミュニケーションが減り、年を取ってしまった。高齢者と言えどもパソコンを使えるような状況を作らなくてはならない。とにかくついていかなくてはならない。**中学生や小学生が教えてくれるような環境を作る**といい。

分類	グループ	意見
		● 伝成館では、一部屋を高齢者が集まれる場所を作っている。パソコンには歴史のデータが保存されているので、昔話ができる語り部の集まりをやっている。そこに行くと、自然とパソコンにも慣れてくるので、一つのきっかけになる。**高齢者もパソコンを使えるような場を作って、そこに小学生や中学生が一緒に集まり、コミュニケーションの場**にできればいい。 ● 最近 e-sports **をお年寄りにもやってもらって認知症予防**をやろうという動きがあるので、一緒にやっていければいい。子どもたちに来てもらうというソフト面と、場を作るというハード面を組み合わせてマッチングしていければいい。
	WEB 参加	● 中標津町は**通信インフラが弱い**。 ● 町内でも **WEB を通してつながることができれば、もっとたくさんの人の意見を聞いたりできる**のはないか。今回 WEB のすごさを実感した。一方で、**会う時間に価値が出てくる**のではないか。 ● 資源の使い方でも、**ペーパーレス化**を進めるなど、地球に負担をかけないようにできるのではないか。 ● コロナで**通信インフラが大事な位置づけ**になってくる。
都市マスの見直し方針	WEB 参加	● **10 年後を考えるのではなく、（コロナ終息後）数年～５年後にもう一度見直す**ということを計画にあらかじめ入れておくのはどうか。 ● これからは、都市マスが始まったときの構想とは違った形で考えていかないといけない。本来考えていたことができなくなってる。10 年先を見通すのではなく、**もう少し短いスパン**で考えていかないといけないのでは。 ● どうしたらいいかまだ見えていない中で、どこまで都市マスに落とし込めるか疑問である。もう少し時間をもらってからにした方がいい。 ● 交流拠点、観光、産業はこれからどうなるか分からないため、**途中で見直しを入れる**のはアリではないか。
都市づくりの視点	会場２	● 都市計画の点から、東京一極集中が問題視されているが、単純に密度を減らせばいいというのではなくて、その時々に応じて適度な密度がある。 ● **公園のようなオープンスペースの配置**も考えて行かなくてはいけない。中標津町の公園は外れにある印象。公園に人がいるというのを見たことがなく、もったいない。公園をつなげる遊歩道などがあるといい。
	WEB 参加	● 今ある社会資本は何か、考えるべき。道路、公共施設など、中標津の場合どうなっていくのか。 ● 大規模集会がだめになって、この後どのようにできるのか。

＜テーマ３：ツボ活性化プロジェクトの検討方法＞

表　委員からの意見（テーマ３）

分類	グループ	意見
検討の進め方について	会場１	● **テーマに関連する専門職を呼んで意見を聞く**のはいいことだと思う。 ● **策定委員会だと意見が偏る**ので、他の人を呼んでやるのはいいと思う。 ● 普段は飲みに行ったりしているのに、会議の時だけ気を付けているというのも違和感がある。入るときに熱を測るとか、一通りのことはやったうえで、**集まって会議をしてもいい**。
	会場２	● 進め方についてはいいと思う。 ● うまく人数が分かれるといいと思うが、調整が必要になるかもしれない。**ある程度人がいないとプロジェクトチームとして成り立たない**。 ● プロジェクトチームに**進行役となるファシリテーションができる人**がいるといい。
	WEB 参加	● 集まれるかどうかというのはあるが、**フォーラムで集まったメンバー、ファシリテーターに声をかけて**参加を呼び掛けてはどうか。 ● 今まで出た意見は町民の皆さんに知ってほしいし、実現したいが、パブコメも０件の状況で、どのように参加してもらえばいいか悩ましい。 ● フォーラムでもやってほしい、作ってほしい、行政に対する要望が大きく、自分たちがどう動くかという感じではなかった。町民の方を募集したところで、沢山は来ないのではないか。 ● **最初から沢山集めるのでなく少人数で始めることはできる。** ● フォーラムで出た内容が自分がやりたい内容かといわれると、違う気がする。意見が聞ける場があったことは良いと思うが、やりたい人を集めるイメージができない。難しいように思っている。自分が策定委員としてどう動けばいいか、まだ見えていない。 ● 色々な引き出しをつくるのが行政の役割である一方、プロジェクトチームでどこまでやるべきか。**策定委員が自分の専門外のところで具体的な話を進めていけるのか**疑問。（丸山公園など） ● **策定委員も個人参加の方は自分の興味があるプロジェクトを選べばいい**。 ● 出てきたアイデアの中で、**実際に活動している人や団体などの情報**があるのか。**今あるイベントを盛り上げる**とか、そういう方向でも考えてはどうか。 ● **既存の活動をうまく巻き込みながら**でないと、今までやってきた人たちは面白くないだろう。 ● **まちづくり協議会の取組も巻き込んでいく**ことが必要である。 ● 実際にイベントをやらなくても、**こんな感じでやりたいというイメージができればいい**のではないか。

分類	グループ	意見
テーマ設定について	会場１	● これからのまちづくりには、**まちにあるものをどうやって有効利用していくかということが重要**になる。 ● しるべっとも含めて、**学校や病院など、まちの建物を使い切るという発想**で、そういう**施設が中標津にはどれだけあるかを明らかにして、まちづくりに活かした活用方法を考える**ことが重要になる。 ● **選択肢の１と２は一緒に**やってはどうか。
	会場２	● **選択肢の１・２と、３・４は掘り下げていくことにそれほど差はない**ように感じる。特に３・４については、エリア的には一体的になるようなイメージがある。**あまり細かく分けると少人数になってしまう**のではないか。 ● コロナの影響を受けて**ツボのアイデアの内容についても、考え方が変わった点もある**と思う。 ● 自分がやるとしたら、身近な拠点というのはどこかまだ決まっていないということなので、選択肢５をやってみたい。
	WEB 参加	● まちづくりフォーラムでみんなが見た図を基本にするべき。ほかの４つはこのままの名称で残したほうがいい。**４つのツボ（まちなか、公園・公共施設、身近な地域の拠点、計根別）はこのままの名称で残したほうがいい。** ● 空港と公共交通はあまり意見が出なかったが、移動手段は大事。**空港、移動手段、空き家などは「研究プロジェクト」として残してもらいたい。** ● テーマには、**交通の話は入れておくべき**である。 ● **公共交通や空き家**はもともとやりたかったことだし、町民でもやりたい人がいた。 ● **テーマごとに、コロナの中で今できることは何なのか、整理する**ことが必要。 ● プロジェクトにあるアイデア自体、コロナの状況下でできるかできないが絞られるので検討の余地がある。**今の状況でできるプロジェクトを選ぶ必要がある**。施設の中で何かをやるのはハードルが高い。

図　意見交換の内容（会場グループ１）

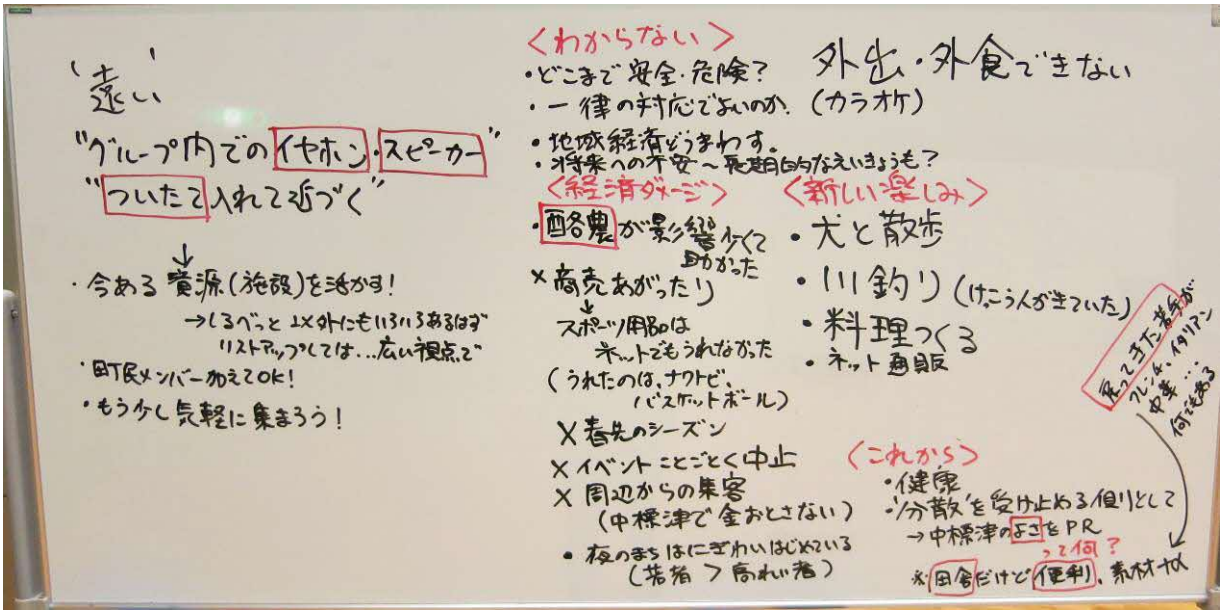

図　意見交換の内容（会場グループ２）

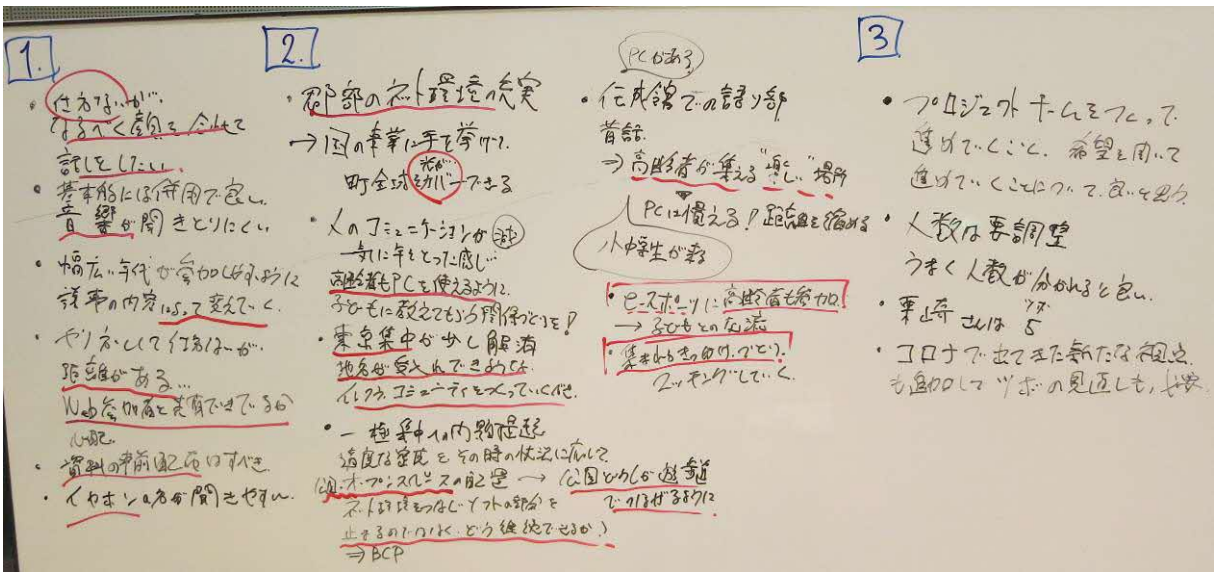

図　意見交換の内容（WEB 参加グループ）（1/2）

テーマ①　今年度都市マスの検討をどうやって進めるべきか

委員の皆さんのご意見

東田さん

- 今日のようにWEB併用をお願いしたい、札幌から行く人に対してリスクを感じる人がいる。
- 新北海道スタイルだけで進めるのはまずい気がする。

細谷さん

- 今年度はウィズコロナで進んでいく。WEBを活用して、タブレットやノートパソコンを持ってWEB会議を進めていく体制を整えるべき。（この後の再流行に備えて）

佐々木さん

- WEB参加だけにはできない。中標津町のネット環境が良くない。
- この後のコロナのことを考えるとWEB参加の方法を確立した方が良いのではないか。

松田さん

- WEB人口を増やすことはこれから取り組むべきこと。ここにいる皆さんは普通に使っているが、まだ使ったことがない方々も多い。教えあったりすると世代間の交流にもなる。
- 学校でもあまり進んでいない。

飯野さん

- 会議の進め方はWEBを選択肢の一つとして確立していくべき。
- まちづくり町民会議でもこのような方法を取れないか。町としてもやり方の一つとして整備していくか検討しては。

意見交換で出た内容

- WEBを進めていくことは良いことだが、会場にいらっしゃる方はWEBに対するハードルが高かったりする。WEBでないとだめだとなると、その方々が疎外感を感じてしまう。（細谷さん）
- インターネット環境的な問題は整備できるものなのか。（松田さん）

テーマ②　アフターコロナを踏まえてどのような要素を付け加えていくべきか

委員の皆さんのご意見

東田さん

- 今ある社会資本は何か、考えるべき。道路、公共施設など、中標津の場合どうなっていくのか。大規模集会がだめになって、この後どのようにできるのか。
- 10年後を考えるのではなく、（コロナ終息後）数年～５年後にもう一度見直すということを計画にあらかじめ入れておくのはどうか。

細谷さん

- この先どうなるかは分からないが、これからは、都市マスが始まったときの構想とは違った形で考えていかないといけない。本来考えていたことができなくなってる。
- 10年先を見通すのではなく、もう少し短いスパンで考えていかないといけないのでは。

佐々木さん

- どうしたらいいかまだ見えていない中で、どこまで都市マスに落とし込めるか疑問である。もう少し時間をもらってからにした方がいい。
- 通信のインフラが中標津町は弱い。

松田さん

- 田舎に住んでいてよかったと感じた。人があまり住んでいない、交通の便がいい中標津は住みやすいのではないか。
- 町内でもWEBを通してつながることができれば、もっとたくさんの人の意見を聞いたりできるのはないか、WEBのすごさを実感した。
- 資源の使い方でも、ペーパーレス化を進めるなど、地球に負担をかけないようにできるのではないか。
- 会う時間に価値が出てくるのではないか。

飯野さん

- コロナで通信インフラが大事な位置づけになってくる。
- 交流拠点、観光、産業はこれからどうなるか分からないため、途中でも見直しを入れるのはアリではないか。

図　意見交換の内容（WEB 参加グループ）（2/2）

テーマ③　ツボ別プロジェクトをどのように検討するか

委員の皆さんのご意見

東田さん

- まちづくりフォーラムでみんなが見た図を基本にするべき。
- 空港と公共交通はあまり意見が出なかったが、移動手段は大事。空港、移動手段、空き家などは「研究プロジェクト」として残してもらいたい。
- 伝成館の取組は教育委員会に託しても良いと思う。
- ほかの４つ（まちなか、公園・公共施設、身近な地域の拠点、計根別）はこのままの名称で残したほうがいい。
- テーマごとに、コロナの中で今できることは何なのか、整理することが必要。

細谷さん

- プロジェクトにあるアイディア自体、コロナの状況下でできるかできないが絞られるので検討の余地がある。今の状況でできるプロジェクトを選ぶ必要がある。施設の中で何かをやるのはハードルが高い。

佐々木さん

- 集まれるかどうかというのはあるが、フォーラムで集まったメンバー、ファシリテーターに声をかけて参加を呼び掛けてはどうか。

松田さん

- フォーラムで出た内容が自分がやりたい内容かといわれると、違う気がする。意見が聞ける場があったことは良いと思うが、やりたい人を集めるイメージができない。難しいように思っている。
- 自分が策定委員としてどう動けばいいか、まだ見えていない。

飯野さん

- どのように集まれるのか、時間も限られた中でどうするか。
- テーマには、交通の話は入れておくべきである。

意見交換で出た内容

- 出てきたアイデアの中で、実際に活動している人や団体などの情報があるのか。今あるイベントを盛り上げるとか、そういう方向でも考えてはどうか。（松田さん）
- 今まで出た意見は町民の皆さんに知ってほしいし、実現したいが、パブコメも０件の状況で、どのように参加してもらえばいいか悩ましい。（松田さん）
- 公共交通や空き家はもともとやりたかったことだし、町民でもやりたい人がいた。最初から沢山集めるのでなく少人数で始めることはできる。（東田さん）
- 策定委員も個人参加の方は自分の興味があるプロジェクトを選べばいい。（東田さん）
- 色々な引き出しをつくるのが行政の役割である一方、プロジェクトチームでどこまでやるべきか。策定委員が自分の専門外のところで具体的な話を進めていけるのか疑問。（丸山公園など）（飯野さん）
- フォーラムでもやってほしい、作ってほしい、行政に対する要望が大きく、自分たちがどう動くかという感じではなかった。町民の方を募集したところで、沢山は来ないのではないか。（細谷さん）
- 既存の活動をうまく巻き込みながらでないと、今までやってきた人たちは面白くないだろう。（細谷さん）
- 実際にイベントをやらなくても、こんな感じでやりたいというイメージができればいいのではないか。
- まちづくり協議会の取組も巻き込んでいくことが必要である。（佐々木さん）

（３）全体ディスカッション

（ドーコン生沼）

全体でどんな意見があったかを共有したいと思います。WEB カメラを使って、ホワイトボードを映しながら、WEB 参加の方もどんな意見が出たか見ていただければと思います。

＜㈱ドーコンよりグループごとの意見交換結果を共有＞

（ドーコン生沼）

それぞれのご意見をいただいた中で、色々な改善点があるので、少しでも皆様が参加しやすい環境を作っていきたいと思います。

アフターコロナのまちづくりの視点についても意見をいただきましたので、記録をまとめながら、どういったところを反映していくかについて整理していきたいと思います。

３点目のツボ別プロジェクトの進め方については、事務局のほうで絞ってしまったテーマについても、再度検討していきたいと思います。

今３つのグループから意見をいただきましたが、他の意見を聞いてどう思ったかなど、ご意見や質問があればお願いいたします。

会場から、館下さんいかがでしょうか。

（館下副委員長）

これから活動をするなかで、フォーラムに出てきてくれた方など少しずつ声をかけながら、メンバーを増やしていければと思います。

（ドーコン生沼）

WEB のほうからは、いかがでしょうか。名指しで失礼しますが、佐々木さん。

（佐々木副委員長）

コロナに対しての温度差がかなりあります。怖い人と、大丈夫だという人とがいるので、少し様子を見ながらでも前に進められればいいなと思います。

無理せずに徐々にやっていければと思います。

（ドーコン生沼）

臨機応変に対応しながら進めていければと思います。そのほか、ご出席の方の中でご意見などありますでしょうか。

最後に小林先生から意見発表を踏まえてお願い致します。

（小林委員長）

２つほど感じたんですが、１つは時間感覚なんです。近いうちに世界の自動車メーカーナンバーワンのトヨタが本社を移転するんです。名古屋から離れるんです。それは何かというと、トヨタ自動車は自動車で食っていかないということを決めたわけです。何をするかは決まっていないので、これからの彼らの作戦になるわけですが。ここ 10 年位でものすごく状況が変わるということなんです。

飛行機でもエアバスという会社があるんですが、エアバスジャパンのトップの人たちと話をすると、彼らが何にものすごく投資をしているかというとドローンなんです。ドローンと言っても、撮影は当たり前で、彼らは物を運ぶだとか、３～４人で飛行するというテストを

しているんです。

もう一つ通信の話で出てきてましたが、NTT という会社は、去年分社化した会社をすべて一部上場から降ろして大きな組織にしているんです。それは何のためかというと、分社化して NTT は通信技術に負けたんです。いまは５Ｇになりつつありますが、分社化する前には世界のナンバーワンに入っていたのが NTT の研究の力だったのを、それをもう一回、５Ｇの次の６Ｇにチャレンジしているんです。５Ｇは３００メーターごとに拠点を作らなければならない。６Ｇになるとリモートで手術をすることができるだとか、通信技術も短いスパンの間で大きく変わっていくんです。

何を言いたいかというと、我々がまちをつくっていくとき、かつて２０～３０年前は予測ができたのですが、この１０年で技術的にものすごく大きく変化するんです。１００年ごとにパンデミックが起きるんです。巨大なパンデミックの後は、新しい文化が起こるんです。日常的な実感が積み重なって、これまでの資本主義が良かったのかを含めて、価値観がガラッと変わるので、これまでと違う文化や価値観が生まれると考えておいたほうかいいだろうと。そうすると２０年先を考えましょうと言っていた都市マスは難しいわけです。いくつかのチームでもありましたが、リアリティーを持って、今できることを考えていきましょうと。With コロナの２年間はそうやっていく。終息することは絶対にないので、違う世界になっていくんです。違う世界でどうチャレンジするか、というのを共有していくのが第一段階目です。

ニュースや新聞をみると必ず出てくるのは、テレワークとか、リモートワークだとか、ワーケーションだとか、プロボラといった専門家がボランティアで自分の専門的なノウハウを生かすというような、そういうのが世界中で当たり前になりつつあるんです。そういう流れに対して中標津の皆さんはどういうメッセージを出しているのかというのが問われるわけです。そういう場所があるのかというのが問われるわけです。それを２年間くらいのなかで、小さくてもいいので、地元の人と外の人の力を合わせてやるのが大事なのではないでしょうか。トライ＆エラーでやっていくしかないんです。

今日、資料を事前に配らなくて申し訳なかったですが、会場にいらっしゃる皆さんには、テーブルに一つ資料を回したんですが、奈良県の生駒という町があるんです。そこで１年半くらいかけてゴミステーションを作ろうというのがあったんです。ゴミステーションというのは、持続可能な社会を作るために生駒市が何かやりたいというのに共感する会社がそれに乗っかって、ゴミステーションをベースにしながら、現場で働いている人、子どもからお年寄りまで地域のコミュニティの拠点にするというプロジェクトがあるんです。ツボというのが「これだ」というのはわからないのですが、小さな行動を重ねていくことが大事なのではと思います。

さっき話した、メッセージを出しているか、場所を用意しているか、というので、観光協会の人と話したんですが、北海道、日本を対象にしながらメッセージを出したほうがいい。一時はインバウンドに飛びついたわけです。それは必ずしも良くなかったと実感しているんですよね。観光に関わる人たちが動かしているお金は２５兆円くらいあります。そのうちインバウンドは何パーセントくらいだと思いますか？１割５分で、残りは国内なんです。北海道は、北海道の人や日本の人に対して北海道の良さを出してきているか？商店街を含めて全

部インバウンドではないか。誰に情報を出すか、どんな人をイメージして情報を出すかを考えた時に、日本、北海道の人ではないかと。そういう人達に情報を出しつつ、次の中標津の風格と言うか、働いてもいい、テレワークをしてもいいという風格を作っていくのがツボなんだと思うんです。

会議が始める前に役場の人たちに聞いたんですが、中学生や高校生がものすごくつらい数か月を過ごしてきたというんです。その彼らが、数年先にリターンしてくれるかと。ツボというのも中高生のことを念頭に置きながら、まちの風格、良さ、中標津が幸せだと感じられる要素が大事なんだと感じたところです。

小さいものの積み重ねと、日本、北海道の人へメッセージを出そうという気持ち、技術手段は急速に発達していくので予測できない。だからよくわからないWithコロナの２年間、プロフェッショナルの人とタッグを組んで、光るものを見つけていく。小さな試みを着実にやっていく。２年経ったら違う世界がたぶん見えてくるので、そこで大きなシナリオを焼き直すということで、中標津はいいタイミングで、都市マスを作っているのではないかと思います。

６．閉会

（天野課長）

小林先生、本日ご出席の皆様、長時間にわたって大変お疲れ様でした。新型コロナウィルスが長期化すると思います。私たちは国が示した新しい生活様式の実践として新しいライフスタイル、ビジネススタイルの変革をしなくてはいけません。今後も、このような形式で会議を開催することが予想されますが、委員の皆様の積極的なご議論をよろしくお願い致します。

本日はありがとうございました。

以上